

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の実績値
設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生回数	回	4	7

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・社員によるヒューマンエラーが2件である。 ・請負会社によるヒューマンエラーと設計不良が各1件である。 ・施設や車両のトラブル発生により、安全確認・確保に時間を要したものが3件である。
------------------	--

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・社員のヒューマンエラーには、ルール・マニュアルの徹底と研修を充実させるとともに、経験浅薄者へは、研修・訓練を通じて、ノウハウの伝承を行う。 ・請負会社のヒューマンエラーには、請負会社と合同で作業手順や作業リスク等について相互確認を行う始業・作業前ミーティングを徹底し、点検や工事におけるトラブルの未然防止および再発防止を図る。設計不良には、新規採用の製品に対して設計時にメーカーと協議を重ね信頼性の確保を図る。 ・今後も安全輸送に必要な安全確認時間は十分確保しつつ、安定輸送に努める。
----------------	---

〔2〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の実績値
売上高	億円	114	112

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線人口やインバウンド需要の増加などに伴って利用者数が増加し、2月時点では目標値を達成する見込みであった（対前年比 +192百万円）。 ・しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、企業によるテレワークの実施、Jリーグの公式戦延期、万博記念公園およびエキスポシティの一部施設の休業および営業時間短縮などの措置が取られ、お客さまの出控えにつながった。このため、3月の利用者数は前年度比約3割減となり、運輸事業、兼業事業ともに売上高が落ち込んだことから、目標達成は困難となった。
------------------	--

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さまの安全を第一に考え、当面は新型コロナウイルス対策を引き続き実施し、感染拡大の防止に努める。 ・新型コロナウイルスの影響が落ち着いた後、フォトコンテストやスタンプラリーなど回遊性を高めるための方策や、広報活動を、短期集中的に取り組み需要拡大を図る。また、駅ナカの充実など、兼業展開も進めていく。
----------------	--